

歴史探訪

クラブ

其の
202

History Inquiry Club



文化財課 ☎22-1720
(博物館) FAX 22-2028

伊勢湾台風と田原市

昭和の三大台風の一つで、最大規模の被害を出した伊勢湾台風から今年で60年になります。昭和34年9月26日に紀伊半島に上陸したこの台風は、名古屋市南部を中心に、全国で死者4697名、行方不明者401名、負傷者3万8921名という人的被害をもたらしました。

当時の田原市は「たはら歴史探訪クラブその32」で紹介した昭和28年9月25日に襲来した台風13号の被害

からの復旧がようやく終わったころでした。

この伊勢湾台風での被害状況は「田原広報(広報たはら)第52号昭和34年10月15日号」に掲載されています。伊良湖測候所で最大瞬間風速55.3mを観測するほどの暴風が吹き荒れ、被害は現在の田原市内で建物の全壊629棟、半壊238棟、床上浸水171戸、床下浸水1163戸、死者5名、負傷者75名にも上りました。農業被害は温室などの倒壊やキャベツ、エンドウ、ダイコンなど露地野菜の水没などがあり、見積被害額は当時の金額で23億円、現在の金額で345億円ほどで大災害だったことが分かります。



●倒壊した峯山神社

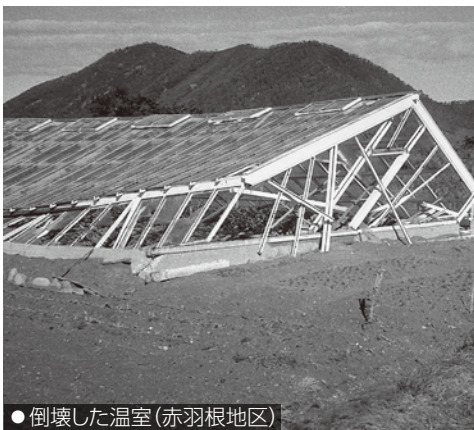
また、被害は土砂崩れや水害もありましたが、風害と塩害もひどかったようです。風害では、風圧でガラスが割れ、雨戸が飛ばされ、そこから吹き込む風に対しては畳を立てて防いだという話が杉浦明平著『海の見える村の一年』の中に載っています。当時の状況を示す写真では、峯山神社は建物が吹き飛ばされたように倒壊し、境内の木が根こそぎ倒れています。三河田原駅周辺では膝下まで浸水し、田原市全体では、木造温室が倒壊するなど被害がありました。



●浸水被害があった三河田原駅周辺

現在ではこのような災害の経験から、風水害に強い家が建てられ、防波堤なども、当時と比べるとより強く高くなっています。それでもまだ、台風の被害があります。当時の体験者によると「地域の人のつながりが強く、伊勢湾台風が過ぎ去った後、自分の家が壊れていても被害のひどい家の復旧を先に取り掛かった」というお話を伺いました。日頃の備えはもちろん、このような災害が起こった時には近くにいる方々での助け合いが必要だと感じます。伊勢湾台風から60年という節目に今一度、もし災害にあつたらどうするかを考えてみてはいかがでしょうか。

(学芸員 浅野まりな)



●倒壊した温室(赤羽根地区)